

【成果概要】6-2. 気候変動による水害リスクの評価

調査結果の概要

■ 平成29年度の成果

- ため池諸元、土地利用状況等に関するデータを収集・整理し、GISデータを構築するとともに、ため池134カ所について現地踏査を行い不足する情報を補完した。
- 土地改良事業設計指針「ため池整備」等を参考として、ため池の流下能力※、下流影響の面から広域的な水害リスク解析を試行し、水害リスクが高いため池を抽出した。

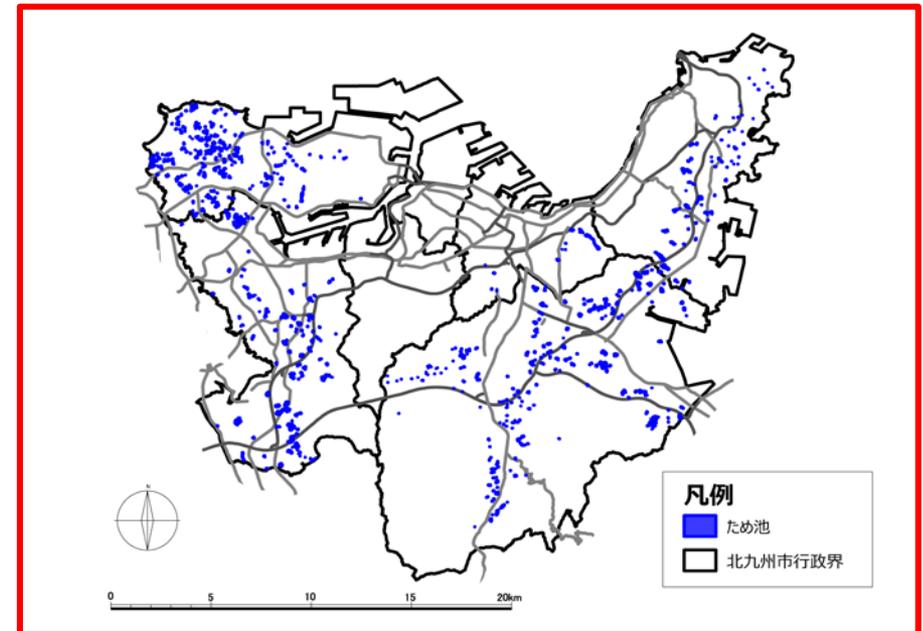
※流下能力: 想定される洪水流量をため池の洪水吐から安全に流下させる能力

■ 明らかとなった課題

- 本調査では、ため池の集水区域(最大4km²程度)における将来降水量を予測する必要がある。このため、気候変動予測シナリオの使用に際しては、比較的分解能が小さいシナリオを選定する必要がある。

■ 平成30年度の調査計画

- 簡易解析モデルを作成し、現在降水量および将来降水量を与えることにより、気候変動による水害リスクを評価する。
- ため池災害に関する適応策の事例や水害リスクの評価を踏まえて、適応策を検討する。
- 試行的に降雨流出氾濫モデルによる被害予測・適応策効果の検証を行う。



北九州市におけるため池の分布
【出典】北九州市提供データを元に九州環境管理協会作成